

和歌山だよいい

平成25年
(2013) 6月号



平草原公園のアジサイ（白浜町）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス… P2～P10
3. お知らせ…………… P11
4. ふるさと歳時記…………… P12



紀の国わかやま国
体へご協力お願い
いたします

熊野比丘尼

昔から日本では熊野信仰が盛んでした。「蟻の熊野詣」と言われるほど多くの人が熊野に参詣しました。こういう風に栄えている時には、必ず制度としての工夫があります。昔、我が和歌山県は、熊野参詣を宣伝するために「熊野比丘尼」を全国に派遣して人々を勧誘したのです。営業ウーマンですね。また、「先達(せんだつ)」と呼ばれる人々が全国から参詣客を熊野まで連れて来ます。旅行業者とガイドですね。さらに、現地熊野では「御師(おんし)」と呼ばれる人々が訪問客の旅館の手配などを引き受けるのです。今流行の着地型観光業者ですね。このように我が和歌山県では、昔は熊野参詣を支える観光業の隆盛があったのです。観光振興が叫ばれる中、今、その子孫である我々はもう一度、これらのジャンル毎に熱心な活動をしなければなりません。第一にPR、キャンペーンを全国、全世界で展開しなければなりません。第二に旅行業者へのアタックも大事です。第三に着地型観光業者の奮起を期待したいところです。

和歌山県では、JRのデスティネーションキャンペーンなどさまざまな重要案件のあるこれから3年間を和歌山の観光振興にとって最大のチャンスと捉えて、各地でキャンペーンをはり、若手職員も含めて日本国内はもちろん世界中の旅行業者に積極的にアタックをかけています。そのうち1つが、今年の伊勢神宮式年遷宮の際、お伊勢さんにお参りする客に和歌山まで来てもらおうという試みです。

このため、私も昨年お伊勢参りの主体である全国の神社2,000社に手紙を送り、県の職員はこれまで42都道府県478箇所の神社やその総代会に勧誘に参りました。まさに現代の熊野比丘尼です。また、おいでになった観光客に「和歌山はよかったなあ」と思ってもらわないといけません。タクシーや旅館の接客ぶりの研修をしてもらうのもその1つです。清潔なトイレも重要な要素です。国体までの2年間で、和歌山県はすべての公衆トイレをセンサー洗浄機能付きの男性用小便器と温水洗浄便座付きの洋式トイレを備えたものとする「和歌山おもてなしトイレ大作戦」を展開します。



5/28 定例記者会見にて

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●オーストラリア・タイ王国を訪問

・5月6日から5月11日まで、仁坂知事は、山下直也県会議長をはじめ県議会の代表6名(豪州のみ)と食品や観光関係などの県内事業者とともに豪州(シドニー)及びタイ王国(バンコク)を訪問しました。

オーストラリア

・2013年が日豪観光交流年であることから、シドニーでは、和歌山県への誘客を念頭に「食と世界遺産」セミナーを開催し、旅行エージェントなどを対象としたトップセールスを実施しました。また、日本総領事公邸にてレセプションを開催し、政府要人等に広く和歌山の魅力を発信しました。

○和歌山「食と世界遺産」セミナー

・5月7日、和歌山県が誇る観光資源・自然の恵みを受けた和歌山の「食」等の魅力を伝えるべく、トッププロモーションを実施しました。

・セミナーでは、和歌山県立医科大学宇都宮准教授による「おいしい！健康わかやま」と題した講演で「梅の機能性」についてのPR、田辺市熊野ツーリズムビューローによる熊野エリアの紹介、高野山金剛峯寺の僧侶による阿字観体験や声明の披露により魅力あふれる和歌山のPRができました。

・セミナーに参加したオーストラリア人からは、「金剛峯寺による阿字観や声明を拝見することができ、和歌山の歴史・文化に触れることができる貴重な経験であった。和歌山県を訪問したい。」などのコメントがありました。



○駐シドニー日本総領事主催レセプション

・小原在シドニー総領事を表敬訪問し、現地情勢について意見交換を行いました。

・レセプションでは、和歌山県の食材を用いた料理や梅酒を提供し、和歌山県の魅力を発信しました。今回オーストラリアを訪問した企業は、中野BC株式会社、合名会社丸正酢醸造元、株式会社角長、中田食品株式会社の4社です。

タイ王国

・バンコクでは、タイ政府観光庁との間で観光客誘致に資する相互支援に向けた協議を実施しました。また、ホテルにて和歌山「食と観光セミナー」を開催し、和歌山のPRに尽力された旅行雑誌社に対して和歌山アワード(記念品)を贈呈したほか、年間30万人を突破すると見込まれるタイからの訪日旅行客を和歌山に取り込むべく、高野山金剛峯寺や県内事業者とともに和歌山をPRしました。

○ショップグローバルタイランド社長との懇談

・5月9日、ショップグローバルタイランドの大橋社長と懇談し、タイにおけるマルチメディア小売事業の展開について意見交換を行うとともに、ショップチャンネルでの県産品取扱いについて協力を依頼しました。

○観光関係者との昼食会

・タイ旅行業協会のスポンチャイ理事や益田JNTOBangkok事務所長と懇談し、順調に訪日観光客数を伸ばしているタイ国民の旅行・観光に係る傾向等を情報収集するとともに、和歌山県への誘客つながるツアーの企画を依頼しました。

○タイ政府観光庁訪問

・タイ政府観光庁を往訪し、ジャモン・ジュナピヤ日本・東アジア担当統括理事と協議を行い、今後さらに双方の関係を強化し、観光分野において相互協力していくことで合意しました。



○地元雑誌社との懇談会

・高野山や熊野など和歌山県の特集を組んだ旅行雑誌社、旅行社の代表者と和歌山県の魅力について意見交換し、訪日旅行客が伸びている中、更なる和歌山への誘客に資するよう特集記事の掲載を依頼しました。

○和歌山プロモーション

・和歌山が誇る豊かな観光資源・自然の恵みを受けた和歌山の「食」等の魅力を伝えるべく、トッププロモーションを実施しました。
 ・シドニーでの和歌山「食と世界遺産セミナー」と同様に、梅の機能性、高野山金剛峯寺のPRにより、和歌山への関心を高めることができました。
 ・レセプションでは、さらに、和歌山アワード(記念品)の贈呈や、和歌山県産品や梅酒を提供し、魅力あふれる和歌山をPRしました。
 ・レセプションと同時並行で開催した旅行エージェントとの商談会において、本県への誘客に資する商品造成について依頼したところ前向きな回答をいただきました。また、多くの旅行エージェントと商談会を実施することができ、今後の観光客誘致につながることを期待できます。



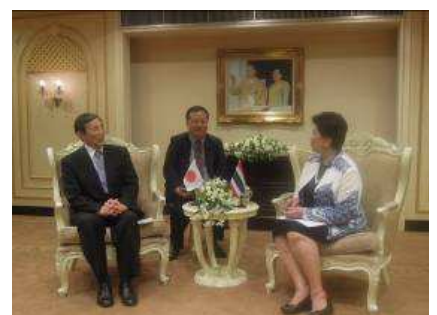
○タマサート大学訪問

・5月10日、タマサート大学の学生の雇用に興味のある県内企業とともに同大学を往訪し、ソンキット学長とグローバル人材確保ネットワーク事業について意見交換し、今後も和歌山県の取組に対し引き続き支援、協力していくことで合意しました。
 ・県内企業が海外での事業展開や販路開拓、販路拡大を図るうえで、グローバル人材確保は重要なテーマの一つであり、今回タマサート大学との関係をさらに深化できたことは、今後の事業展開に有益であると思われます。



○バンコク都訪問

・バンコク都のプサティ副知事を表敬訪問し、和歌山県をPRするとともに、今後も友好協力関係を継続していくことで合意しました。



●和歌山県戦没者追悼式を実施しました

・5月5日、県民の皆様とともに先の大戦において亡くなられた県内の戦没者を追悼し、平和を祈念するため、和歌山県民文化会館において和歌山県戦没者追悼式を実施しました。

・これまでの追悼式は和歌山県遺族連合会の方々が主催してこられましたが、今年度から、広く県民が参列できる式典とするため、県が主催となって追悼式を実施することとなりました。

・式典において、仁坂知事は「今日の平和と繁栄が、戦禍の中で命をなくされた多くの方々の御無念と、御遺族の皆様への悲しみと苦難の上に築かれたものであることを決して忘れない。この郷土和歌山を、なお一層光り輝く素晴らしいものとするのが、今を生きる私たちの責務であり、全力を尽くすことを誓います。」と追悼の言葉を述べました。



●「わかやま森林と樹木の日」記念行事を開催

・5月18日、和歌山市の四季の郷公園にて、「わかやま森林と樹木の日」記念行事を開催しました。

・和歌山県では、平成23年に開催した第62回全国植樹祭の意義を後世に伝え、森林及び樹木を守り育て、緑豊かな和歌山を将来に引き継いでいくため、「和歌山の森林及び樹木を守り育てる条例」をつくるとともに、記念行事を開催しています。

・記念行事の冒頭、仁坂知事は「県民、特に子どもたちに、緑や森林・樹木に親しんでもらう県であるよう運動を続けていきます。」と挨拶しました。

・式典では、「和歌山県緑化功労賞」の表彰も行われました。この賞も条例に基づいて創設されたもので、森林及び樹木を守り、又は、育てる活動において、特に顕著な功績があった方々を表彰するものです。今年の受賞者は、和歌山市立加太小学校の皆さんで、仁坂知事から同校代表の子どもたちに表彰状が手渡され、功績を讃えました。

・記念植樹では、第62回全国植樹祭の記念式典において、天皇陛下にお手播きいただいたオガタマノキの苗、皇后陛下にお手播きいただいたクマノミズキの苗、それぞれ2本ずつを四季の郷公園内に植樹しました。

○受賞者功績

<和歌山市立加太小学校>

・海・山・川の豊かな自然環境に恵まれた特性を後世に伝えるため、紀ノ川の源流域である奈良県川上小学校との交流を通じて、子供達が森林の大切さや、森林と海の繋がりなどの体験活動を積極的に行うとともに、地域の方々や観光協会と連携した友ヶ島、淡島街道沿いへの植樹などの継続した緑化活動を通じて、自然を大切にしたい地域の緑化推進に貢献。



●風しんワクチン接種に対する助成制度がスタートしました！

・平成25年1月から5月29日までの和歌山県における風しんの累積報告数は114人であり、平成24年1年間と比較して約1.2倍の報告数となっています。

・風しんの流行は数年続くことが予想され、今回県は妊婦とその子どもを風しんから守るため子育て支援の緊急対策として、風しんに対する予防接種を支援することを決定しました。

・急な流行に備え、急拠支援を実施することとしたため予算措置は6月議会に諮られることとなりますが、予算成立後まで接種を控える人が出ると危険が増すため、発表日(5月21日)以降接種を受けられた方も、領収書を提出することで補助分の払い戻しを受けることができることとしました。また、この対策は国に先駆けて実施するものであり、早急な対応を講じるように国にも働きかけを行っています。

＜事業内容＞

○妊娠を希望する女性や妊婦の夫に対し、麻しん風しん混合(MR)ワクチン又は風しんワクチンを接種する場合、接種費用の一部を県が助成します。また、市町村が県制度と同程度の上乗せを積極的に実施し、市町村分と併せ自己負担金が不要となるよう県から働きかけています。

- ・開始時期 平成25年5月21日(火)から適用
- ・対象者 19歳以上50歳未満の妊娠を希望する女性・妊婦の夫
- ・補助内容 接種費用のうち定額5,000円を県が支援
- ・実施形態 実施主体は市町村、県が支援

●第7回全国鈴木サミット&鈴木フォーラムが開催されました

・5月21日～22日、全国の鈴木姓の人々が交流を深める「第7回全国鈴木サミット&鈴木フォーラム」が、海南省で開催されました。鈴木姓は全国で1位とも2位とも言われる多さですが、そのルーツは平安時代末期に熊野地方から海南省の藤白神社の神官として移り住んだ「紀州藤白鈴木家」が元祖とされており、海南省は「鈴木姓」の発祥の地といわれています。

・全国鈴木サミットは、第1回に分家のある秋田県羽後町で始まり、本県を含む石川県や熊本県などのゆかりの地で開催されてきました。本県では、海南省の藤白神社で過去3回開催され、今回で4回目となりました。鈴木フォーラムは、県内を含め全国に広く「鈴木姓」と「発祥の地 海南省 藤白」をPRするとともに、老朽化が著しい「紀州藤白鈴木家」が建てた「鈴木屋敷」を復元等を目的に、自動車メーカー「スズキ」の鈴木 修 会長兼社長もお迎えし、全国鈴木サミットと併せて初めて開催されました。

・フォーラムでの式典にあたり、仁坂知事は「スズキ自動車の名を借りて、スズキの名が全世界に広がっている。『鈴木』の名の発祥が「海南省」であることは大変な誇りであり、そのブランドを広げていくことは大事なことです。そのために来年度、国から「鈴木屋敷」の史跡指定を勝ち取り、県・市が一緒になって一日でも早く復元させることで皆様方の熱意に応えたい。」と述べました。その後、スズキ株式会社 鈴木 修 会長兼社長が「スズキの海外進出」と題しての講演で、「大きい車を好むアメリカではなくアジアに目を向け、自動車メーカーのないインドに進出し、トップセールスが功を奏しシェア1位を獲得した。」と話され、また「鈴木屋敷」復元にもエールを送っていただきました。



●紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会募金(きいちゃん募金)に係る感謝状贈呈

- ・この度、新中村化学工業株式会社及びセイカ株式会社から、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会募金(きいちゃん募金)に多額の寄附をいただきました。
- ・5月15日、仁坂知事から新中村化学工業株式会社 中村 公彦代表取締役会長、セイカ株式会社 竹田 純久代表取締役社長に感謝状が贈呈されました。
- ・仁坂知事からお礼を述べた後、両社代表者から仁坂知事へ紀の国わかやま国体での男女総合優勝に向けた激励の言葉をいただきました。
- ・提供いただきました寄附金は、両大会のボランティア活動や県民運動など、大会運営経費に活用させていただきます。



●第51回全国選抜大学・実業団対抗相撲和歌山大会が開催されました！

- ・和歌山県営相撲競技場は昭和36年に設置されて以来、昭和46年の黒潮国体でも会場となるなど、本県の相撲競技の中心的な会場として利用されてきました。
- ・この度、平成27年の「紀の国わかやま国体」開催に向け、観客席を覆うドーム型の屋根を整備した全天候型の相撲場としてリニューアルしました。
- ・5月19日、改築を記念して第51回全国選抜大学・実業団対抗相撲和歌山大会が開催されましたが、大会に先駆け相撲場のオープニングセレモニーが実施されました。
- ・セレモニーにおいて、仁坂知事は「この新しい施設に、全国から大学及び実業団を代表する選手をお迎えできることは非常に光栄なこと。今日の大会では、日頃の厳しい稽古の成果を十分に土俵の上で発揮していただきたい。」と挨拶しました。
- ・和歌山県は、過去に本大会において、(株)松源相撲部や和歌山県庁相撲部などが、団体戦・個人戦ともに輝かしい成績を収めるなど数々の名選手を輩出してきました。
- ・今大会でも、和歌山県庁が団体戦準決勝戦で前年優勝の日本大学から勝利を挙げ、場内が歓声と拍手の渦に包まれましたが、決勝戦で日本体育大学に敗れ、昨年に続き惜しくも準優勝に終わりました。
- ・(株)松源は初優勝を目指しましたが、準々決勝で東京農業大に敗れ、残念ながらベスト8にとどまりました。



●WBC女子フライ級新チャンピオンが誕生！

・5月19日、WBC(世界ボクシング評議会)女子世界フライ級タイトルマッチが和歌山市のビッグウェーブで開催され、和歌山市在住の挑戦者 真道 ゴー選手(クラトキボクシングジム)が王者のレナタ・セベレディ選手(ハンガリー)に3-0で判定勝ちし、2度目の挑戦で初めての世界タイトルを獲得しました。

・真道選手は、第1ラウンドでは連打を浴びる場面もありましたが、第2ラウンド以降は、王者を終始圧倒しました。

・5月24日、仁坂知事を表敬訪問した 真道 ゴー選手に、「今後もがんばって100回くらい防衛してください。」と励ましました。真道選手は、「これからも挑戦者のつもりで、一戦一戦おもしろいと思ってもらえるようなレベルの高い試合をしたい。」と、今後の抱負について語りました。



●第13回和歌山県障害者スポーツ大会開催！

・5月26日、和歌山市の紀三井寺公園陸上競技場において、第13回和歌山県障害者スポーツ大会が開催されました。

・本大会は、障害者のスポーツ振興を図るとともに障害者に対する社会の理解と認識を深め、障害者の自立と社会参加の促進に寄与することを目的としています。また、優秀な成績を収められた25名の選手が、10月に東京で開催される第13回全国障害者スポーツ大会に出場します。

・選手宣誓では、紀の川市選手団の 泉中 條子(いづななかじょうこ)さんが、各選手団の旗手に囲まれる中、「指導してくれた人への感謝を忘れず、全力でがんばることを誓います。」と晴れやかに宣誓をしました。

・開会式に先駆けて、フライングディスク競技、水泳競技、卓球、アーチェリー競技は終了しており、この日は陸上競技が実施され、322人の選手が熱戦を繰り広げました。

・6月に行われるボーリング競技をもって本大会が終了することとなります。



●紀州材ベストユーザー賞表彰！

・県では、平成21年度から紀州材ベストユーザー賞を創設し、東京・大阪など県外の木材大消費地において、紀州材の需要拡大に実績のある企業等を対象に、その優れた取組を表彰しています。

・この度、平成24年度の受賞者が決定し、5月21日に表彰式を行いました。

○受賞者概要

＜株式会社川口建設＞

大阪府南部を拠点とする木材無垢の在来工法を専門とする工務店。平成22年度から紀州材(龍神産)を使用した自社ブランド「龍神」を立ち上げる。主要構造材及び内装材に紀州材を使用しており、なかでも化粧梁や造作物などの「あらわし」にこだわり、紀州材の魅力を表現している。紀州備長炭入りの漆喰や和紙などの自然素材にもこだわり、健やかで心地よい居住空間を提供。

＜京阪電鉄不動産株式会社＞

京阪電鉄沿線での大規模マンションの建設や建売分譲住宅の企画販売等を実施。同社が企画設計から施工まで一貫して手がけたローズプレイス京阪宇治の内装には、玄関フロアから階段、手すり、キッチンカウンターに至るまで、随所に紀州材を使用。



●わかやま木の家コンテスト2012表彰！

・県では、良質で健康・安心の素材「紀州材」の、より一層の普及を図るため、わかやま木の家コンテスト2012～あなたが選ぶ紀州材の家～を実施しました。

・応募14作品の中から、審査員による一次審査、さらに一般投票による二次審査を経て、最優秀賞、優秀賞の受賞者が決定し、5月21日に表彰式を行いました。

・表彰式において、仁坂知事は「紀州材を活かした家づくりにより、紀州材の普及に貢献していただいていることに感謝します。」と挨拶し、表彰状及び記念の木製楯が手渡されました。

○受賞者概要

最優秀賞「庭を楽しむ家」 瀧川建築デザイン事務所 代表 瀧川 嘉彦

優秀賞「大きな玄関土間の家」 中村伸吾建築設計室 代表 中村 伸吾

優秀賞「息吹」 株式会社高松工務店 代表取締役 高松 敬治



●和歌山県知事表彰式を開催しました。

- ・5月28日、和歌山市のアバローム紀の国において「平成25年和歌山県知事表彰式」を開催しました。
- ・和歌山県知事表彰は公共の福祉増進に功労のあった方、その他県民の模範となるべき方を表彰して、その功績を讃えるもので、昭和28年に始まり、これまでに、多くの方々を表彰してきました。
- ・今年は、50名と9団体の方々を表彰し、仁坂知事から表彰状と記念品が贈呈されました。
- ・仁坂知事は、これまでのすべての受賞者に感謝の意を表すとともに、「ふるさと和歌山をさらに輝かせるよう全力を尽くしていくが、和歌山が飛躍するように一層のお力添えを賜りたい。」と式辞を述べました。
- ・受賞者を代表して、産業の振興の分野の一柳 良雄さんが「この晴れの受賞を励みにして、心も新たに、より一層の努力をさせていただく。」と挨拶しました。



知事表彰受賞者（順不同・敬称略）

（地方自治の振興）

町長及び市町村の議員や職員として地方自治の発展・育成に尽くされた方々

中圖廣行、山鹿史行、江川治、賀城進良、道浦令一

（保健福祉の増進）

民生児童委員や医師などとして地域の福祉や医療、保健衛生の向上に尽くされた方々

泉勝一、岩本研、上林雄史郎、木下孝、嶋本光子、高誠、寺下俊雄、福田幸子

宮本佳子、脇所武夫、特定非営利活動法人 白浜レスキューネットワーク

新宮市新宮赤十字奉仕団

（環境衛生の向上）

廃棄物処理や食品衛生向上に努め、環境衛生の発展に尽くされた方

細谷治巳

（暮らしの安全及び向上）

地域の交通安全や防犯活動、防災活動、運輸業などを通じ、県民生活の安全と向上に尽くされた方々

北島益美、杉浦正英、志波邦夫、大浦稔、井上慎治、細田知義、上垣共子

坂上茂代、崖自主防災会

（教育、文化等の振興）

海外との交流の発展や芸術等を通じた地域文化の振興、教育の充実に尽くされた方々

山下悦子、林尚夫、上原淳生、山田桂子、木下延秀、紀州文化の会

特定非営利活動法人 和歌の浦万葉薪能の会

（産業の振興）

商工業・農林水産業・建設業など各分野での活動を通じ、業界の振興及び育成発展に尽くされた方々

一柳良雄、太田研、恩賀要、加藤正彦、柴田隆至、杉若直樹、富永良、松林清隆

三木保典、浅井康次、井碕啓次、山崎龍平、坂本信也、細川清、大杉達、尾花滋

藤平良光、山本聰洋、池内茂雄、藤田貴司、和歌山県和裁協会

（ボランティア）

精力的なボランティア活動により地域の活性化に尽くされた方々

点訳グループ「みちしるべ」、和歌山県サーフィン連盟

（地域おこし）

様々な分野での新たな取り組みにより地域の活性化に尽くされた方々

大井一成、ゆめ倶楽部21

●「' 13 食博覧会・大阪」に紀州の味を体験できるわかやま紀州館を出展！

～マグロ丼や口熊野ラーメンなど紀州わかやまの味が勢揃い～

・4月26日～5月6日の11日間、インテックス大阪(大阪市)で開催された「' 13 食博覧会・大阪」に紀州の味を体験できるわかやま紀州館を出展し、大勢のお客様で賑わいました。

・4月29日には、「和歌山の食と観光」のPRイベントが開催され、仁坂知事が発酵食品の源流である「醤油」や「なれ寿司」などの紀州食材の魅力をPRするとともに、熊野古道や温泉、パンダなど、和歌山の素晴らしい観光資源も強力にアピールしました。

・また、ゲストとして発酵料理研究家の高橋香葉さん、ウインズの平阪さんも駆けつけてくださり、和歌山ブースを大いに盛り上げていただきました。



●「堺和歌山県人会」総会が開催されました。

・5月19日、堺和歌山県人会第52回総会・懇親会が堺市のホテルサンブラザにおいて、開催されました。

・懇親会の冒頭、保田会長が「県人会同志の繋がりを深め、和歌山の発展や堺の発展のために貢献していきたい。」と挨拶しました。続いて、来賓として出席した竹山修身堺市長に堺市緑化基金への目録が贈呈されました。

・アトラクションでは河内音頭が披露され、会場内に踊りの輪ができるなど、懇親会は終始和やかなムードの中で進みました。さらに、会場内の一角には田辺市による、恒例の梅酒の試飲コーナーが設けられ、懇親会を盛り上げました。

・堺和歌山県人会の皆様方にはふるさと納税等でご協力いただいていることに、感謝申し上げます。



挨拶する保田新会長

●「神戸和歌山県人会」総会が開催されました。

・5月26日、平成25年神戸和歌山県人会総会・懇親会が神戸市の東天紅において、開催されました。

・皆さんでの記念撮影後、懇親会の冒頭、小畑会長は「近畿の和歌山県人会の皆さんにもお越しいただき、感謝します。皆さんとともに、和歌山を盛り上げていきたい。」と挨拶しました。

・今回、会場内に初めて有田市による特産品の紹介コーナーが設けられ、特産のみかんジュースが振る舞われただけでなく、温室みかんも出席者に配られ、懇親会を盛り上げました。

・神戸和歌山県人会の皆様方にはふるさと納税等でご協力いただいていることに、感謝申し上げます。



ふるさと和歌山応援寄附のお礼とご案内

ふるさと和歌山応援寄附の取組に多数の皆様のご理解とご賛同をいただき誠にありがとうございます。

お陰をもちまして、平成24年度は129人の方から1,682万8,684円の温かいご寄附をたまわりました。また、心温まる力強い応援のメッセージも多数いただきました。紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた寄附金は、次のとおり活用させていただきましたのでご報告申し上げます。

ふるさと和歌山応援寄附金の活用

平成24年度寄附総額

16,828,684円

活 用 額

16,100,000円

※残りの728,684円は平成26年度以降の事業に活用させていただきます。

寄附金活用事業

「世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の保全や活用」として

熊野三山の熊野参詣道等の復旧、保全
丹生都比売神社本殿の保存修理

260万円

250万円

「わかやま国体の開催に向けての準備」として

国体開催のための競技用具整備

360万円

「わかやまの美しい海づくりの推進」として

磯ノ浦、片男波、浜の宮の海水浴場の整地やトイレの整備

70万円

「わかやまの文化財の保護を進める」として

国宝根来寺の保存修理
湯浅町湯浅伝統的建造物群保存地区保存修理

80万円

70万円

「学校図書館や県立図書館の蔵書の充実」として

県立学校の図書館の蔵書の充実
県立図書館の蔵書の充実や県民・市町村への貸出し推進

260万円

260万円

この他の施策も強力に推進しますので、本年も引き続き、ふるさと和歌山応援寄附を通じて和歌山県を応援していただきますようお願い申し上げます。

また、平成24年4月から、全国の郵便局で寄附の払込が出来るようになりました。手軽に寄附をすることができるようになりましたので、ぜひご活用ください。

「ふるさと和歌山応援サイト」では、寄附申出時に公表に同意していただいた方のお名前や応援メッセージを掲載していますので、ぜひご覧ください。

ふるさと和歌山応援サイト

検 索

URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

～橋本市～

橋本市は、万葉の頃からゆかしい歴史と自然が息づき、市内中央部を「紀の川」が東西に流れ、高野街道と伊勢(大和)街道の交差する交通の要衝地として、また、高野山参詣者の宿場町、産業の集散地として栄えてきました。

～中世の仏堂と古代寺院跡を訪ねて～

利生護国寺本堂(国重要文化財)

- ・聖武天皇の勅(ちよく)を受け、僧行基が造営した四十九院の一つとされ、奈良西大寺との関係が深いとされています。
- ・本堂は南北朝時代に兵火で焼失し、天授年間(1375～1381)に再建されたものといわれています。
- ・本堂は寄棟造、本瓦葺の建物で、簡素であるが上質で中世の奈良系仏堂としての特徴をよく伝え、和歌山系の仏堂とは異なる構造をもっています。



名古曾廃寺跡(県指定文化財)

- ・近年の発掘調査で、塔の基壇(きだん)とそれに並ぶ金堂の基壇の存在が確認されています。塔心礎は結晶片岩の巨石を長方形に加工したもので長辺2.1メートル、短辺1.5メートルあり、中程に芯柱がのる穴が、その中央に仏舎利を納める穴が穿たれています。
- ・現在、塔と金堂の一部が整備され、塔の心礎上に護摩堂が建てられています。



神野々廃寺塔跡(県指定文化財)

- ・橋本市の西部で旧高野口町との境にあり、標高85メートルの河岸段丘上に位置しており、現在、塔基壇と心礎が残存しています。
- ・塔基壇は一辺12メートルの規模を持つものと考えられ、基壇縁は河原石を積み上げた乱石積みで、心礎は旧位置を保っていると考えられますが、他の礎石は不明です。
- ・出土した瓦からみて、奈良時代前期から後期にかけて存続したものと考えられています。



橋本市ホームページ <http://www.chw.jp/>

～編集後記～

梅雨入りし、不安定な天候が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

和歌山(近畿地方)も平年より10日ほど早く5月28日に梅雨入りとなりました。

この時期になると、全国的にも鮎漁が解禁となります。鮎料理は、季節感を強く感じさせてくれる味覚で、夏の気配が一層色濃く感じられるようになります。

有田川では、一足早く5月1日から鮎漁が解禁となっていました。そして、6月からはいよいよ「有田川の鵜飼い」の季節ですが、今年の鵜飼いが鵜匠の減少と高齢化などで中止になったとのことでした。

有田川の鵜飼いは、一人の鵜匠が一羽の鵜を綱で操り、松明を掲げながら川の中を歩いて鮎を捕る「徒歩(かち)漁法」という漁法で、室町時代から約600年の歴史があり今では、全国でも有田川だけで行われており県の無形文化財にも指定されています。私も、昨年船上から初めて見て、その迫力に感動しましたが、歴史ある「夏の風物詩」が中止になってしまい、たいへん残念です。

ただ、鵜飼いの例に限らず、県内の農林漁業をはじめ商工業においても、技術者等の高齢化と後継者不足は深刻な問題の一つです。和歌山県には、南高梅・有田みかん等の農産物、紀州へら竿・紀州漆器等の伝統産業など日本に誇る素晴らしい伝統があります。これらを絶やすことなく、守りながら発展させていくことが、私たち行政の役割であると改めて痛切に感じています。

さて、県政トピックスでもいくつかスポーツに関する記事を書かせていただきましたが、私も、梅雨の合間に青空を見つけ、夏に向かってどんどん体を動かし、元気を出して何事にも取り組んで行きたいと思っています。

ともあれ、これから蒸し暑い日が続く、食中毒も発生しやすい季節となりますので、皆様、体調管理には万全を期してお過ごし下さい。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等をお願いします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2013年(平成25年)6月 NO.62

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022